

投稿のために

(2025 年 6 月 1 日改訂)

従来の「投稿規定」「投稿原稿のジャンルについて」「執筆要項」「執筆要項補遺」「BELF 参考文献表記法」を一部整理し一つの文書「投稿のために」に統合しました。

投稿規定

1. 会員は、この雑誌に投稿することができる(共著論文の場合は、筆頭執筆者(ファーストオーサー)が会員であれば投稿することができる)。ただし、投稿は媒体を問わず未公開原稿に限る。二重投稿は認めない。
2. 投稿原稿は、論文、研究ノート、論評、紹介、展望、文献案内、情報ファイル、フランス語メモ、新刊紹介、研究集会報告などとする。それぞれのジャンルの定義については、下記「投稿原稿のジャンルについて」を参照のこと。
3. 投稿原稿は、Microsoft Word で入力し、メールの添付ファイルで事務局に送信する。学会ホームページの専用フォーマットを使用し、図表も含めて、論文は 20 枚以内、研究ノートは 10 枚以内、論評・紹介は 7 枚以内、フランス語メモは 4 枚以内、新刊紹介・研究集会報告は 2 枚以内とする（欧文の場合も学会ホームページの欧文の専用フォーマットを使用し、同枚数とする）。なお、展望・文献案内・情報ファイルについては、編集委員会で枚数を適宜決定する。
4. 用いる言語は、日本語、フランス語、または英語とし、論文には本文冒頭に、本文が日本語の場合には欧文の、本文が欧文の場合には日本語の 20 行以内のレジюме＋キーワードを添える（レジюме＋キーワードは上記の枚数制限内とする）。欧文論文および欧文レジюмеは事前にネイティヴ・チェックを受けること。
5. 「本文原稿ファイル」とは別に、「表紙ファイル」を作成する。表紙ファイルには、形式（論文、その他）、タイトル（和文および欧文）、総枚数、氏名、住所、電話／FAX 番号、E メール・アドレス、所属を明記する。
6. 投稿規程に従っていない場合は、失格となることがある。
7. 原稿の採否および分量、掲載時期は、査読会議を経て編集委員会が決定する。
8. 原稿提出締め切りは 11 月末日必着、「本文原稿ファイル」と「表紙ファイル」を事務局のアドレス（学会 HP[<https://www.sjlf.org/>]参照）まで送信する。
9. 原稿の詳しい書式については以下の執筆要項を参照のこと。

投稿原稿のジャンルについて

(1) 論文（20 枚以内）

当該分野における位置付けが明確で、独創性と論理性を兼ね備えた実証的、理論的な研究。

(2) 研究ノート（10 枚以内）

着想や方向性が高く評価される萌芽的研究。論文の要件を満たすことよりも、将来的な発展性を重視する。

(3) 論評（7 枚以内）

特定の本や雑誌論文または研究動向などを取り上げて、内容を紹介した上で評者の立場から批判的に検討するもの。

(4) 紹介（7 枚以内）

特定の本や雑誌論文または研究動向などを取り上げて、その内容を詳しく紹介するもの。

(5) 展望

活発に研究されている分野や注目に値する研究動向を取り上げて、大局的視野から紹介し論評するもの。

(6) 文献案内

特定の研究テーマに関する重要文献を系統的に集めて解題を施し、今後の研究に資するもの。

(7) フランス語メモ（4 枚以内）

特定の構文や単語・表現などを取り上げて、その特徴や振舞いをわかりやすく論じるもの。

(8) 情報ファイル

コンピュータの利用、インターネット、コーパス、電子ジャーナル、言語解析ソフトなど、フランス語学研究の外的環境の最新の動向について情報を提供するもの。

(9) 新刊紹介（2 枚以内）

過去数年の間に出版された単行本を取り上げ、その内容を簡潔に紹介するもの。

（注）「展望」「文献案内」「情報ファイル」については枚数規定を設けず、編集委員会で適宜決定することになっています。

執筆要項

(2025 年 6 月 1 日改訂)

2025 年度の BELF 第 60 号より、和文原稿の場合、本文及び脚注の句読点は「,」「.」ではなく「,」「。」を用いることになりました。参考文献等については下記「4. 参考文献」に従ってください。

1. 原稿の書式

1.1. ページ設定

学会ホームページに掲出の Word の専用フォーマットを使用する。

1.2. 原稿の表題、執筆者の氏名等

1.2.1. 表題・副題

- ・原稿の表題は中央寄せにする。
- ・和文原稿で副題がある場合には、表題の下に全角ダッシュ一つを副題の前後にスペースなしで付けて表題同様中央寄せにする。ただし、和文の「新刊紹介」に限っては、参考文献の場合と同様に副題は改行せずにスペースなしで前後に全角ダッシュ一つを付ける。欧文原稿で副題がある場合には、改行せずに表題の後ろにコロンを付ける。

1.2.2. 氏名・所属

- ・執筆者の氏名は専用フォーマットのとおりに入力する。姓名が 3 文字の場合は、姓と名の間に全角スペースを入れる。
- ・執筆者の所属については、原稿の本文の最後で改行し、丸カッコに入れて右寄せして記入する。

1.3. 本文作成上の注意

1.3.1. 字体

- ・学会ホームページにある専用フォーマットのとおりとする。
- ・章、節の番号とタイトルは、ゴシック体（太字、ボールド）、欧文の作品名や雑誌名はイタリック体（斜体）、注の参照は上付き文字⁽²⁾を用いる。
- ・原稿のその他の部分では、入力する際にゴシック体やイタリック体、アンダーライン、アクセント付き文字、上付きまたは下付き文字など、雑誌に印刷される時に希望する字体を用いる。

- ・本文中の引用符には「」ではなく“ ”を用いる。
- ・和文原稿では、句読点は「.」「,」ではなく「。」「、」を用いる。

1.3.2. 人名

作家・研究者の姓は、1 字目に大文字を、2 字目以降には小文字を用いる。

1.3.3. 外字登録

個人が作成した外字登録文字を使用している場合は、別紙に使用している旨を明記し、外字とそれに対応させたコード番号との対照表を添える。

1.3.4. 例文

例文は左マージンを全角で 2 字分あけてから例文の番号を示し、次に全角 1 字分あけて入力する。また例文が 2 行以上にわたるとき、2 行目以降の頭は 1 行目の例文の始めに合わせる。また 2 行以上にわたる設定にはできるだけインデント機能（(段落ごとの）左マージン設定、ルーラー等）を使用する。次の例で、「□」記号は全角 1 字分を示す。

【例】

□□(10)□ Il se souvenait parfaitement d’une photographie de ses parents le jour
de leur mariage.

□□(11)□ a.□ Il se souvenait parfaitement d’une photographie de ses parents le
jour de leur mariage.

b.□ Parfaitement il se souvenait d’une photographie de ses parents le
jour de leur mariage.

なお、* や? がつくときはそれらが飛び出て目立つように空白を設定する。

【例】

□□(1)□□ Pierre est intelligent, même très intelligent.

□□(2)□ *Pierre est intelligent, même relativement intelligent.

□□(3)□a.□ ? Si Pierre est intelligent, même très intelligent, il pourra résoudre
le problème.

b.□□ Si Pierre est intelligent, même relativement intelligent, il pourra
résoudre le problème.

1.3.5. 字下げ

引用などでの数行にわたる字下げには、できるだけインデント機能を用いる。

1.3.6. 注の表記

注は各ページ下の脚注とする。参照記号は本文の中では、²⁾ のように上付き文字で指示する。この指示が、コンマ、ピリオドと同時に用いられる場合は、次の順になる。

【例】...指摘した²⁾。...指摘したが²⁾、...

1.3.7. 図表の配置

図表は本文中に入れる。

2. 電子ファイル原稿

2.1. 電子ファイル

電子ファイル原稿をメール添付書類として事務局に送付する。同一のコピーを作って、手元に保管しておくこと。

2.2. パソコンの機種・使用ソフト

原稿は Microsoft Word のファイルとする。ただし、やむをえず Word 以外のソフトを利用するときは、念のためテキストファイル（拡張子が.txt のもの）を同じメールに添付する。テキストファイルではアクセントなどが欠けるが、そのままでもよい。

3. 校正

執筆者による校正は初校のみとする。

4. 参考文献

参考文献リストは「参考文献」として本文の後に置く。並べ方は、欧文文献、日本語文献を混淆させ、abc 順とする。一つの文献名が 2 行以上にわたるときは、2 行目以降を全角 1 字分だけ字下げする。表記法は以下の通りとする。

4.1. 単著雑誌論文の場合

欧文文献

著者の姓, 名イニシアル. (出版年), “論文名”, 雑誌名 巻号, ページ数.

(例) Sthioul, B. (2000), “Passé simple, imparfait et sujet de conscience”, *Cahiers Chronos* 3, 23-38.

和文文献

著者姓名 (出版年) 「論文名」『雑誌名』 巻号, ページ数.

(例) 榎本美香 (2003) 「会話の聞き手はいつ話し始めるか」『認知科学』 10-2, 291-310.

【注】

[1] 巻号の表記は雑誌によって様々であるが、元の表記を尊重して No. 3 とか XXII などとせず、一律に単純に数字のみで 3 とか 12 とする。number と issue まで表示があるときは、*Linguistic Inquiry* 5-3, のように、number (5) と issue (3) をハイフンで結ぶ。和文雑誌も、「第 32 号」とか「12 巻 2 冊」とか、雑誌によって表記がちがうが、

すべて数字のみとする。ただし合併号に限ってスラッシュを用いて *Revue de sémantique et pragmatique* 9/10 のようにする。

[2] 論文名は最初のみ大文字で、あとはすべて小文字とする。

[3] 雑誌名は原則として最初の文字だけ大文字、残りは小文字にする。

(例) *Le français moderne, Langages, Revue québécoise de linguistique*

ただし、英語・ラテン語の雑誌名は各語を大文字で始める。

(例) *Linguistics & Philosophy, The French Review, Lingvisticæ Investigationes*

またフランスの雑誌でも *Cahiers Chronos* のように、最初の単語以外でも大文字を使っている場合は、それを尊重する。

[4] 欧文論文はダブルクォーテーションマークでくくるが、その中に元々ダブルクォーテーションマークが入っている場合は、それをシングルクォーテーションにする。ただし、ギョメでくくってある場合にはそれを尊重する。

(例) × Bacha, J. (1998), “*Bien sûr que je viendrai*”, Remarques sur les adverbes construits avec une complétive”, *L’information grammaticale* 2 Numéro spécial Tunisie, 27-31.

○ Bacha, J. (1998), “*Bien sûr que je viendrai*”, Remarques sur les adverbes construits avec une complétive”, *L’information grammaticale* 2 Numéro spécial Tunisie, 27-31.

4.2. 共著雑誌論文の場合

以下、①＝第一著者、②＝第二著者とする。

欧文文献

①姓, ①名イニシアル. & ②名イニシアル. ②姓 (出版年), “論文名”, 雑誌名 巻号, ページ数.
--

(例) Franckel, J.-J. & D. Paillard (1989), “Objet, complément, repère”, *Langages* 94, 115-127.

【注】

[1] & 記号を採用した理由は、フランス語文献に混じって英語文献が引用されることも多く、共著者名を et や and で結ぶとどちらも具合が悪いからである。

[2] 欧文文献で著者が 3 人以上のとき

①姓, ①名イニシアル. , ②名イニシアル. ②姓 [以下同様] & 最終著者の名イニシアル. 姓
--

(例) Goyens, M., B. Lamiroy & L. Melis (2002), “Déplacement et repositionnement de la préposition à en français”, *Linguisticæ Investigationes*, 25-2, 275-310.

ただし、著者が 3 人以上のときは、第二著者名及びそれ以降の著者名を et al. で省略してもよい。

和文文献

①姓名, ②姓名 (出版年) 「論文名」『雑誌名』 巻号, ページ数.

(例) 奥田民雄, 川瀬正一 (1987) 「いわゆる絶対指示について」『国語学』 34, 21-34.

【注】

[1] 著者名と半角括弧の間は、欧文文献同様半角スペースを置く。

4.3. 単行本の場合

欧文文献

著者の姓, 名イニシアル. (出版年), 書名, 出版地, 出版社.

(例) Martin, R. (1983), *Pour une logique du sens*, Paris, PUF.

和文文献

著者の姓名 (出版年)『書名』 出版社.

(例) 神尾昭雄 (1990)『情報のなわ張り理論』大修館書店.

【注】

[1] 共著の場合の著者名表記は、雑誌論文の場合に準じる。

[2] 書名に副題があるときは、ピリオドを打って続けて書く。ただし副題がコロンやダッシュで導入されている場合はこれを尊重する。副題の最初は大文字にする。

(例) Léard, J.-M. (1992), *Les gallicismes. Etude syntaxique et sémantique*, Louvain-la Neuve, Editions Duculot.

[3] 出版地を書くのが完全な文献表記であるが、出版社が複数の都市にあるときの表記が面倒なので、主要地 1 つを挙げて残りは省略する。

[4] 英語の単行本では、書名を構成する各語を大文字で始める習慣があるので、それに準ずる (ただし、冠詞、前置詞、接続詞はすべて小文字)。次の例では *Space, Worlds, Grammar* が大文字で始まる。and, or, with などは小文字。

(例) Fauconnier, G. & E. Sweetser (1996), *Spaces, Worlds and Grammar*, Chicago, The University of Chicago Press.

[5] 著書でなく編書の場合は、編者名の次に (ed) または (dir) と書く。

(例) Kleiber, G. (ed) (1984), *Recherches en pragma-sémantique*, Paris, Klincksieck.

編者が複数のときは、雑誌論文の書き方に準じ、(eds) または (dir) と書く。

(例) Kleiber, G. & J. -E. Tyvaert (eds) (1990), *L'anaphore et ses domaines*, Paris, Klincksieck.

和文文献の場合は、著者名の次にカッコなどに入れずに「編」と書く。

(例) 金水敏, 田窪行則編 (1992)『指示詞』ひつじ書房.

4.4. 単行本に収録された論文の場合

欧文文献

著者の姓, 名イニシアル. (出版年), “論文名”, in 編者の名イニシアル. 姓 (ed) [または (dir)] 書名, 出版地, 出版社, ページ数.

(例) Bottineau, D. (2002), “Les cognèmes de l’anglais : principes théoriques”, in R. Lowe (ed) *Le système des parties du discours, Sémantique et syntaxe*, Laval, Les Presses de l’Université Laval, 423-437.

和文文献

著者の姓名 (出版年) 「論文名」 編者姓名編『書名』 出版社, ページ数.

(例) 益岡隆志 (1997) 「表現の主観性」 田窪行則編『視点と言語行動』 くろしお出版, 1-10.

【注】

- [1] 編者が 1 人のときは、C. Guimier (ed) のように、名イニシアル. 姓の順に書く。編者が複数のときは、G. Kleiber, J.-E. Tyvaert (eds) のように、名イニシアルはすべて頭につける。
- [2] 編者が複数のときは、(ed) でなく (eds) と書く (または (dir) と書いてもよい)。
- [3] 同じひとつの単行本から複数の論文を引用しているときは、2 つ目以降の引用論文の出典は次のように簡略に表記してもよい。

(例) Bentolila, F. (1999), “La thématization en berbère”, in C. Guimier (ed) *Lathématisation dans les langues*, Bern, Peter Lang, 35-41.
Siblot, P. (1999), “Qu’est-ce que poser un thème?”, in C. Guimier (ed), 33-44.

4.5. その他の場合

- [1] 出版予定の文献は (à paraître) と書く。日本語では (近刊) とする。
- [2] 印刷中の文献は (sous presse) と書く。日本語では (印刷中) とする。

[3] よく知られた雑誌名で略号が定着しているものは、スペース節約のため略号を使ってもよい。ただし、*Language* を *Lg* としたり、*Linguistic Inquiry* を *LI* のように省略したりするのは避ける。

(例) *CLS, BSLP, BLS, NELS, SALT*, etc.

博士論文、修士論文などは次のように書く。

著者の姓, 名イニシアル. (出版年), 論文名, 論文の種類, 提出大学名.

(例) Heim, I. R. (1982), *The Semantics of Definite and Indefinite Noun Phrases*, Ph.D. thesis, University of Massachusetts.

論文の種類を表記

(アメリカの場合) : Ph.D. thesis, MA thesis, BA thesis

(フランスの場合) : Thèse de Doctorat, Mémoire de maîtrise, Mémoire de licence

[4] 未出版文献は ms. と書く。

[5] 学会などでの口頭発表資料は次のように書く。

(例) 松井健吾 (2015) 「無意志性を表す Se le V 構文—動作主性の観点から—」 東京スペイン語研究会発表資料。

[6] 雑誌の発行主体が大学の学部・研究室などでそれほど知られていない場合は、雑誌名の次にカッコに入れて発行主体を書く。

(例) 堀口和吉 (1978) 「指示語の表現性」『日本語・日本文化』8 (大阪外国語大学), 34-56.

[7] オンライン上で入手した文献については、URL とアクセスした日付を付す。

(例) Corblin, F. (2010), “La préférence existentielle du déterminant *quelque*”, L. Tovenat (ed) *Déterminants en diachronie et synchronie*, Paris, Projet ELICO, 71-85.
<http://fcorblin.free.fr/textes/prefexistentielle.pdf> (2024 年 9 月 6 日アクセス)

4.6. 本文中での出典表記法

(□は半角スペースを表す)

欧文文献

(著者の姓□(出版年,□ページ))

(例) Sthioul□(2000,□24)によれば・・・

和文文献

(著者の姓□(出版年,□ページ))

(例) 榎本□(2003,□230)によれば・・・

例文の出典を示す場合は、(Borillo□2018,□121)、(志波□2020,□108) のようにする。

(例) C'est le plus fabuleux compliment que l'on m'ait fait *JUSQU'ICI*.

(Borillo□2018,□121)

Se me rompió el pato. (志波□2020,□108)

【注】

[1] 引用された例文の出典が同一であった場合は、*ibid.* (著書の場合は *ibid.*) で示す。

(例) *D'ICI{DEMAIN/LÀ}*, il aura fini son travail. (Kleiber□2018,□39)

JUSQU'ICI, il a été sage. (*ibid.*)